

経済・金融 フラッシュ

中国GDP発表： 景気は好調だが物価は注意信号

経済調査部門 主任研究員 三尾 幸吉郎

TEL:03-3512-1834 E-mail: mio@nli-research.co.jp

1. 中国景気はV字回復を継続

1月21日、中国国家统计局は第4四半期（10-12月期）の実質GDP成長率が前年同期比10.7%増になったと発表した。前年同期比で見た実質GDP成長率は、第1四半期の6.2%増を底として3四半期連続の改善となり、景気が順調にV字回復していることを確認する結果となった（図表-1）。

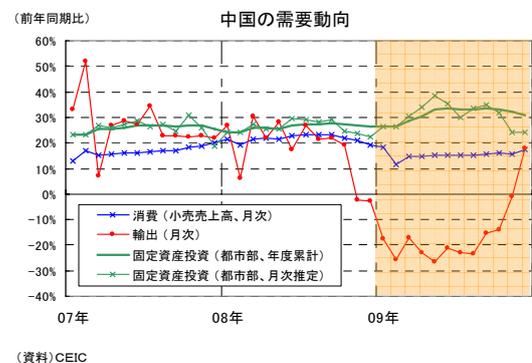
需要動向を見ると、消費が「自動車を農村に」等の消費刺激策により緩やかに伸びを高める中で、世界的金融経済危機を受けて前年同月比マイナス2割前後で推移していた輸出は、昨年秋以降マイナス幅を縮め12月には2桁プラスに転じた。一方、4兆元の景気刺激策や銀行融資の急拡大がサポート材料となった投資は前年同月比3割以上の増加から年末には2割台へ減速してきた。

生産動向を見ると、外需の低迷を受けて1桁台の伸びで推移していた工業生産（付加価値ベース）は6月には2桁台を回復、年末に向けて伸び率を徐々に高めた。個別産業を見ると、減税と補助金の消費刺激策が強力な追い風となった自動車生産は、年初の前年同月比2割マイナスから急速に回復し、12月は月産150万台を超え前年同月比2倍超の生産台数となった。過剰生産設備が懸念される粗鋼の生産は10月のピーク時に前年同月比4割を超える増産となっていたが、年末にかけては伸びが若干減速し始めている。

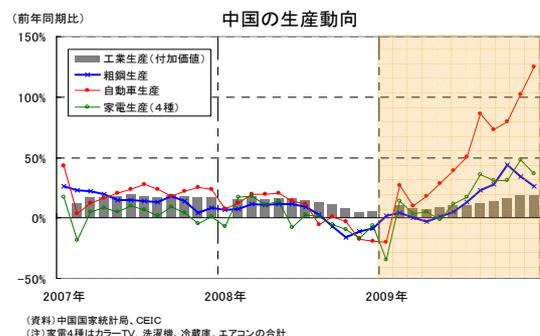
（図表-1）



（図表-2）

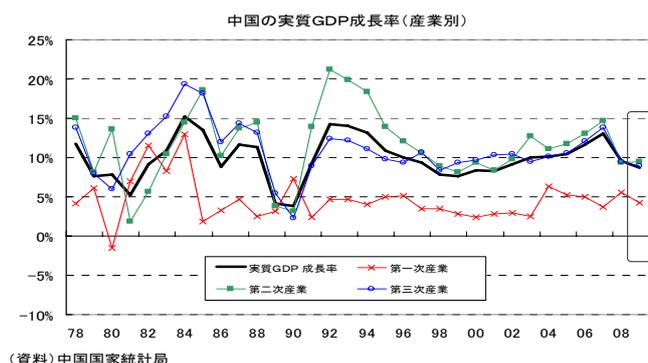


（図表-3）



また、2009年を通じての実質GDP成長率は、前年比8.7%増と中国政府が目標としている8%を上回り「保八」を達成した。産業別の内訳を見ると、第二次産業は9.5%増と外需不振の中で過去平均を下回ったが、大規模かつ迅速な財政金融政策の発動を受けて、2008年の伸び(9.3%)を若干ながら上回った。また、第一次産業は4.2%増とほぼ過去平均並み、第三次産業は8.9%増と過去平均を下回ったがサービス化の進展から底堅い伸び率を維持した。

(図表-4)



【産業別の実質成長率】

	実質GDP成長率 (内訳は各々の成長率)			
	第一次産業	第二次産業	第三次産業	
2002年	9.1%	2.9%	9.8%	10.4%
2003年	10.0%	2.5%	12.7%	9.5%
2004年	10.1%	6.3%	11.1%	10.1%
2005年	10.4%	5.2%	11.7%	10.5%
2006年	11.6%	5.0%	13.0%	12.1%
2007年	13.0%	3.7%	14.7%	13.8%
2008年	9.6%	5.5%	9.3%	9.5%
2009年	8.7%	4.2%	9.5%	8.9%
過去平均 (02-08年)	10.5%	4.4%	11.8%	10.8%

2. 消費者物価が注意信号を発信

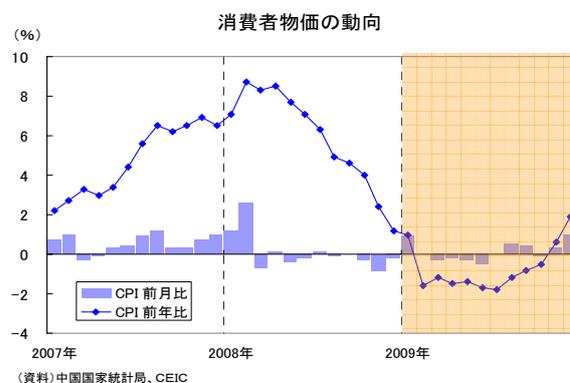
一方、今回の一連の経済指標発表の中でサプライズとなったのは消費者物価の上昇であろう。

図表-5 に示した通り、中国の消費者物価指数は2009年11月に前年同月比の上昇率が10ヵ月ぶりにプラスに転じ12月は1.9%上昇となった。前月比で見ると、原油価格やその他の商品価格の上昇を受けて8月から上昇に転じていたが、図表-6 に示した通り例年夏場には消費者物価が上昇しやすい傾向があり懸念は小さかった。

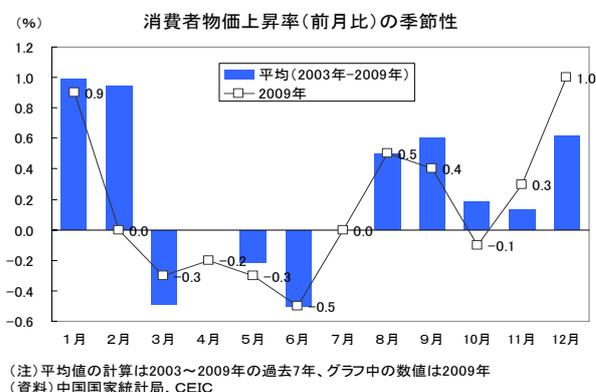
しかし、消費者物価指数の前月比上昇率が11月に0.3%、12月に1.0%と2ヵ月連続で過去平均を大幅に上回る上昇を示したことでインフレ懸念は大きく高まった。例年1月、2月は消費者物価が上昇しやすい時期であり、原油価格やその他の商品価格が横ばいと想定しても今年2月には前年比上昇率が3%に接近すると推計される。

順調にV時回復した中国经济だが、消費者物価は注意信号を発信し始めたといえるだろう。

(図表-5)



(図表-6)



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。